

横浜冷凍株式会社 証券コード2874

# 第75期(2022年9月期) 決算説明会



1. 2022年9月期 連結決算サマリー
2. 2022年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2023年9月期 通期業績予想
6. 持続可能な社会へ –SDGsへの取り組み–
7. APPENDIX

# 1

## 2022年9月期 連結決算サマリー

FY2022 Summary

1. 2022年9月期 連結決算サマリー
2. 2022年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2023年9月期 通期業績予想
6. 持続可能な社会へ –SDGSへの取り組み–
7. APPENDIX

## 売上高前期比4.0%増と堅調に推移、営業利益は前期比65.9%増の大幅増益

売上高

1,152 億円

前期比 +44.7 億円 +4.0% 

営業利益

42.5 億円

前期比 +16.9 億円 +65.9% 

### 業績のポイント

- 各セグメントごとの施策が効果を発揮し、増収・増益
- 冷蔵倉庫事業では在庫量、出庫量、在庫数ともに回復。食品販売事業では水産品が国内外で好調

### 直近の業界動向に関するポイント

資源価格高騰による物価上昇

- 冷蔵倉庫事業
- 食品販売事業

エネルギー価格や物流コストの高騰  
商品単価上昇

ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の指数である

「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定



# FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

# 2

## 2022年9月期 決算実績

Financial Summary for FY2022

1. 2022年9月期 連結決算サマリー
2. 2022年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2023年9月期 通期業績予想
6. 持続可能な社会へ –SDGSへの取り組み–
7. APPENDIX

- 売上高1,152億円(前期比+4.0%)、営業利益42.5億円(前期比+65.9%)と**大幅な増益を達成**
- 冷蔵事業の取扱量増加によるコスト増、および、食品販売事業のウクライナ情勢によるカニの相場の下落などにより、修正業績予想の営業利益は未達となるものの、期首業績予想を上回り着地

(単位:百万円)	21/09期	22/09期(※)	前期比		(ご参考)	
			増減額	増減率	期首業績予想 (2021年11月 12日公表)	修正業績予想 (2022年5月 12日公表)
売上高	110,782	<b>115,257</b>	4,474	4.0%	107,000	109,800
売上総利益	13,797	<b>12,584</b>	△1,212	△8.8%	—	—
売上総利益率	12.5%	<b>10.9%</b>	△1.6pt	△12.6%	—	—
営業利益	2,562	<b>4,252</b>	1,689	65.9%	3,700	4,700
営業利益率	2.3%	<b>3.7%</b>	1.4pt	60.4%	3.5%	4.3%
経常利益	2,762	<b>4,999</b>	2,237	81.0%	4,100	5,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,605	<b>3,317</b>	△288	△8.0%	2,800	3,600
設備投資額	13,744	<b>7,068</b>	△6,675	△48.6%		—
減価償却費	6,688	<b>6,413</b>	△275	△4.1%		—
E B I T D A	9,250	<b>10,665</b>	1,415	15.3%		—
自己資本比率	45.7%	<b>46.8%</b>	1.1pt	2.4%		—

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を22年9月期の期首から適用しているため、前年比は参考値になります。

# セグメント別 損益

- 冷蔵倉庫事業：需要増により在庫量、出庫量、在庫数量ともに順調に前期を上回り、**増収増益**
- 食品販売事業：国内量販店、外食等への販売拡大や水産品の海外販売拡大により**大幅な黒字転換**

(単位:百万円)	21/09期	22/09期 (※1)	前期比		業績予想	達成率
			増減額	増減率		
売上高	110,782	<b>115,257</b>	4,475	4.0%	109,800	105.0%
冷蔵倉庫事業	28,281	<b>30,045</b>	1,764	6.2%	29,600	101.5%
食品販売事業	82,445	<b>85,157</b>	2,712	3.3%	80,145	106.3%
その他	55	<b>54</b>	-1	△1.8%		
営業利益	5,735	<b>7,819</b>	2,084	36.3%		
冷蔵倉庫事業(※2)	5,977	<b>6,447</b>	470	7.9%	6,750	95.5%
食品販売事業(※2)	△302	<b>1,324</b>	1,626	-	1,370	96.6%
その他(※2)	61	<b>47</b>	-14	△23%		

※1 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を22年9月期の期首から適用しているため、前年比は参考値になります。

※2 各セグメントの営業利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です。

# 連結貸借対照表

- 流動資産の売上債権/商品の増加は単価上昇が主な要因
- 固定資産の有形固定資産は来年以降竣工予定の設備資金の増加

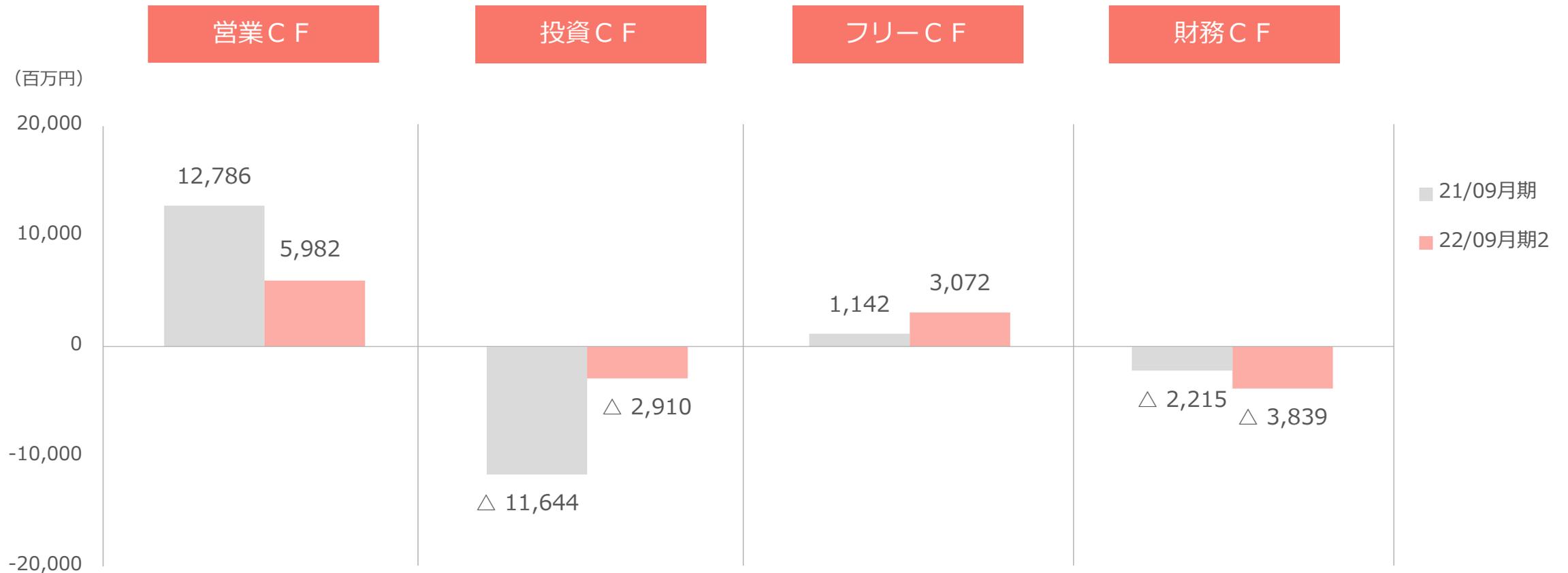
(単位:百万円)

資産	21/09期	22/09期	増減	負債・純資産	21/09期	22/09期	増減
流動資産	41,376	<b>37,934</b>	△3,442	流動負債	34,293	<b>31,430</b>	△2,862
売掛債権/商品	23,571	<b>29,594</b>	6,022	支払手形及び買掛金	4,709	<b>5,225</b>	516
短期貸付金	5,303	<b>4,953</b>	△349	短期借入金 ※1	20,021	<b>17,458</b>	△2,562
その他	9,011	<b>695</b>	△8,316	固定負債	61,341	<b>62,420</b>	1,078
固定資産	136,826	<b>141,087</b>	4,260	長期借入金	29,309	<b>29,727</b>	418
有形固定資産	93,464	<b>94,837</b>	1,372	純資産	82,568	<b>85,170</b>	2,601
投資有価証券	37,014	<b>39,357</b>	2,342	株主資本	77,550	<b>79,157</b>	1,606
総資産	178,203	<b>179,021</b>	818	負債及び純資産	178,203	<b>179,021</b>	818

※1 短期借入金には1年以内返済予定の長期借入金を含みます

# 連結キャッシュフロー計算書

- 営業キャッシュフロー：主に棚卸資産の増加により、前期比で減少
- 投資CF：主にノルウェー養殖事業非連結化による株式の売却により増加
- 財務CF：主に借入金の返済により減少



## セグメント別 決算実績

Segment Result

1. 2022年9月期 連結決算サマリー
2. 2022年9月期 決算実績
3. **セグメント別 決算実績**
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2023年9月期 通期業績予想
6. 持続可能な社会へ –SDGSへの取り組み–
7. APPENDIX

# 冷蔵倉庫事業 - 売上高分析 -

- 新型コロナウイルスの影響はありつつも荷動きは回復し、在庫量、出庫量、在庫数量ともに前期を上回る
- 在庫量、出庫量の増加により保管料、荷役料、通関が増加

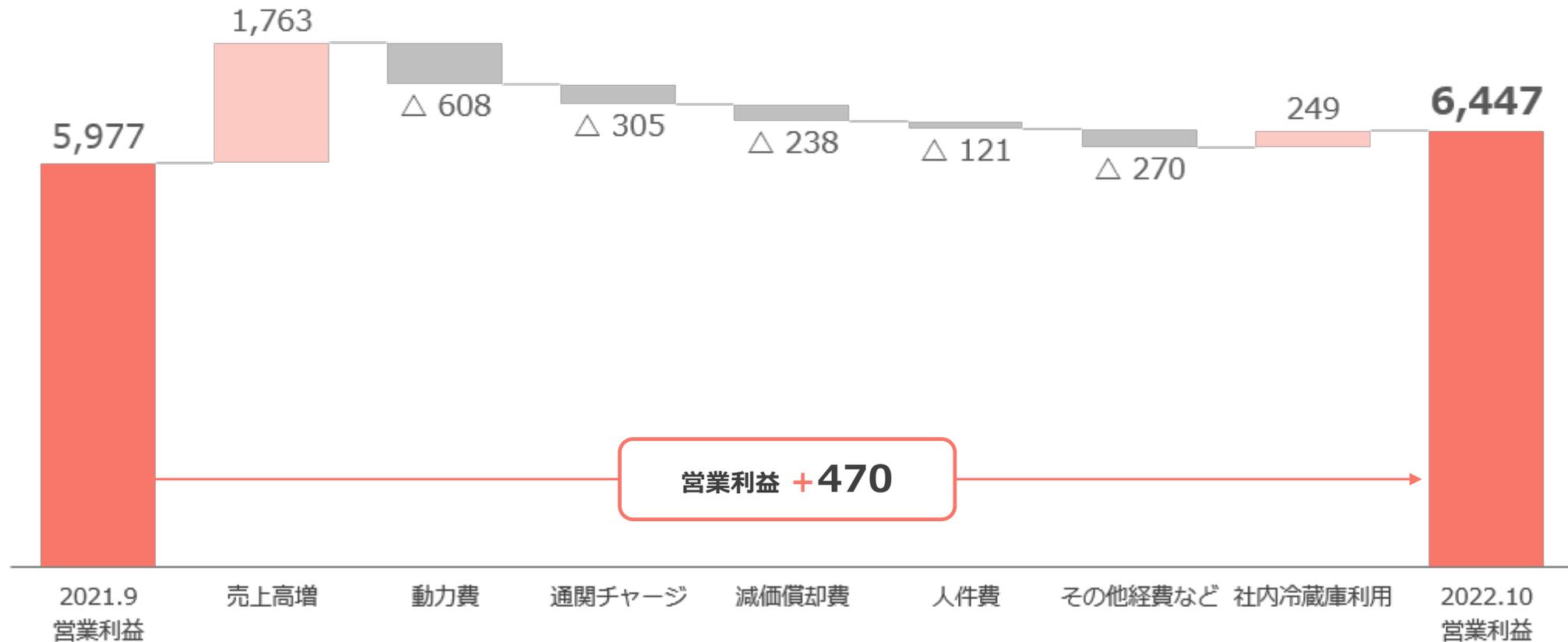


貨物の取扱状況 (前期比)	
在庫取扱量	+7.1%
出庫取扱量	+4.7%
平均保管在庫	+2.8%
平均保管単価	+2.3%

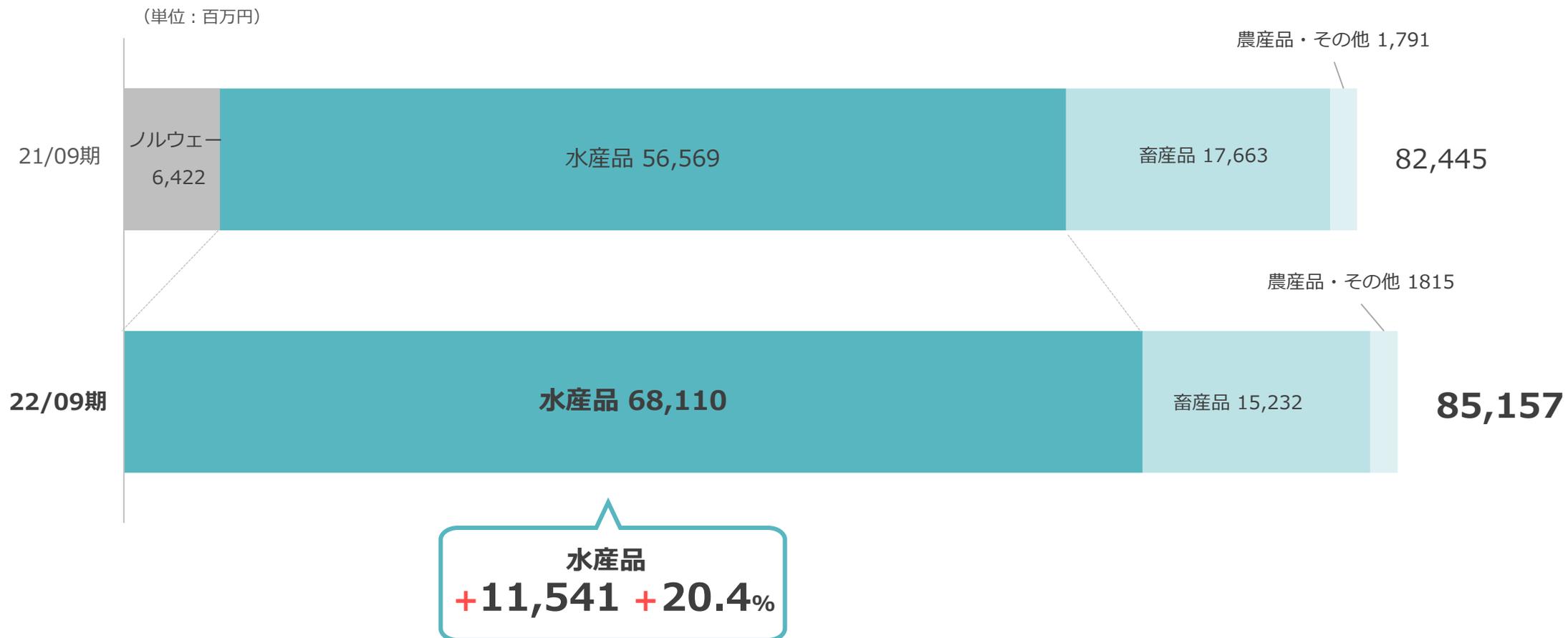
# 冷蔵倉庫事業 - 営業利益分析 -

- 売上高増により470百万円の増益
- 取扱量増加およびエネルギー価格の高騰により動力費△608百万円、通関事業拡大により通関チャージ△305百万円

(単位：百万円)

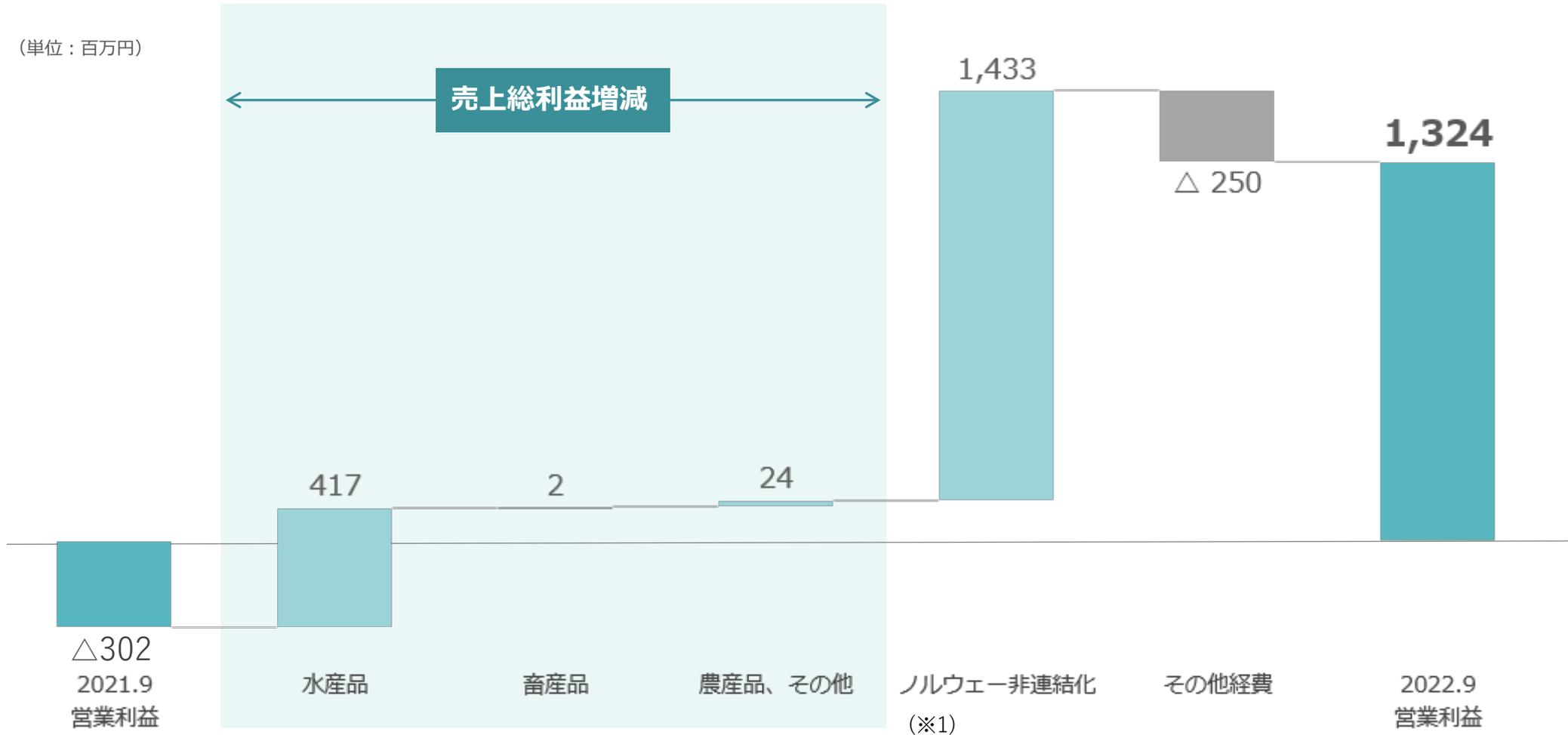


- 水産品：産地事業所や海外パートナーとの連携が進み、国内量販店、外食等への販売が拡大
- 畜産品：量から質への変革、および、まん延防止等重点措置の継続により外食向け畜産品の取扱いが減少
- ノルウェー事業の非連結化による減少影響はあるものの、水産品の増加分が減少分を上まわる



# 食品販売事業 - 営業利益分析 -

- 水産品が417百万円増益、畜産品は減収なるも2百万円の増益で単体の利益は193百万円の増益
- 前期赤字の主因となったノルウェー事業の非連結化により、セグメント利益は大幅増益



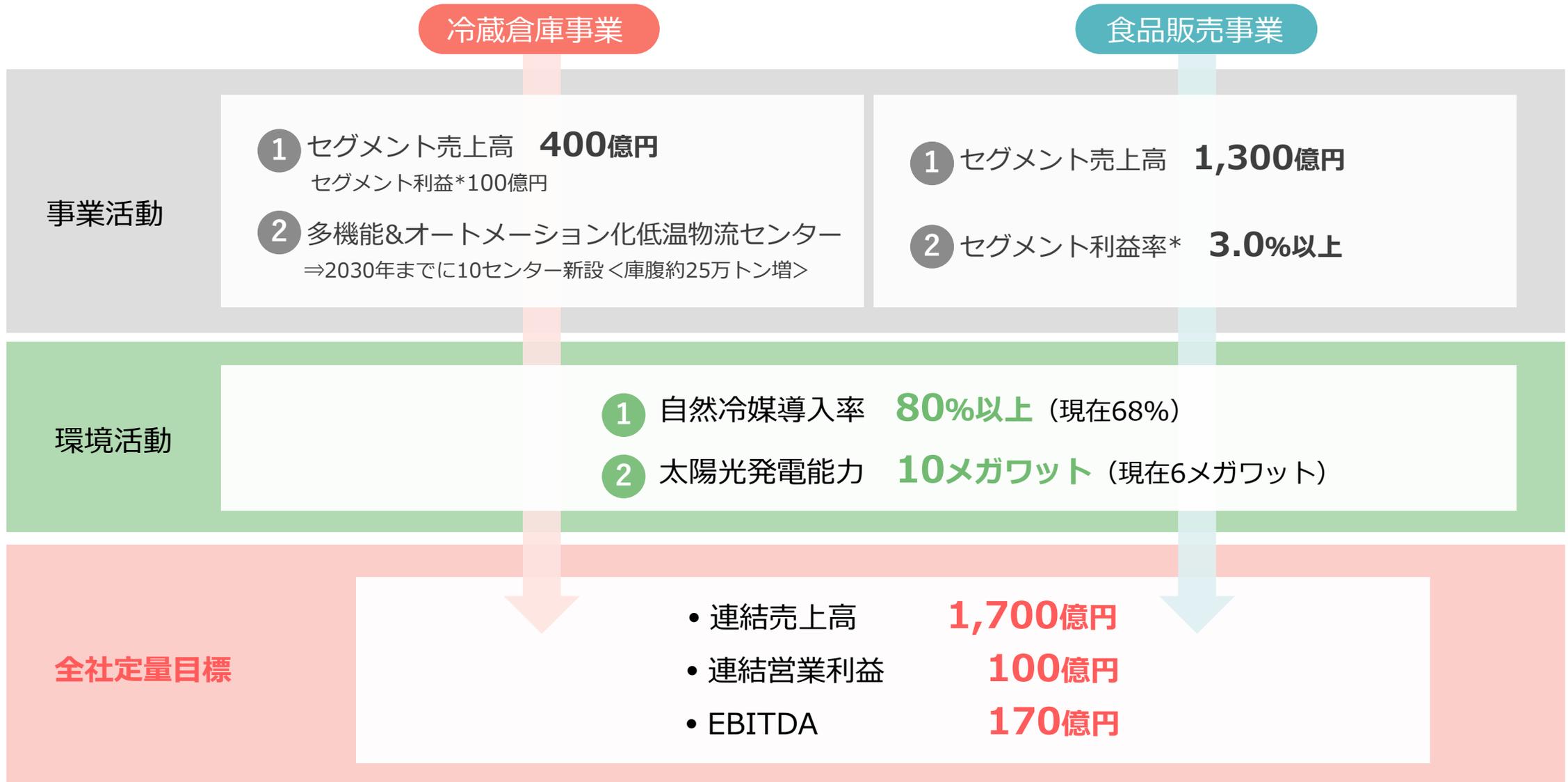
※1のれん負担の減少および営業経費の減少を含む

# 4

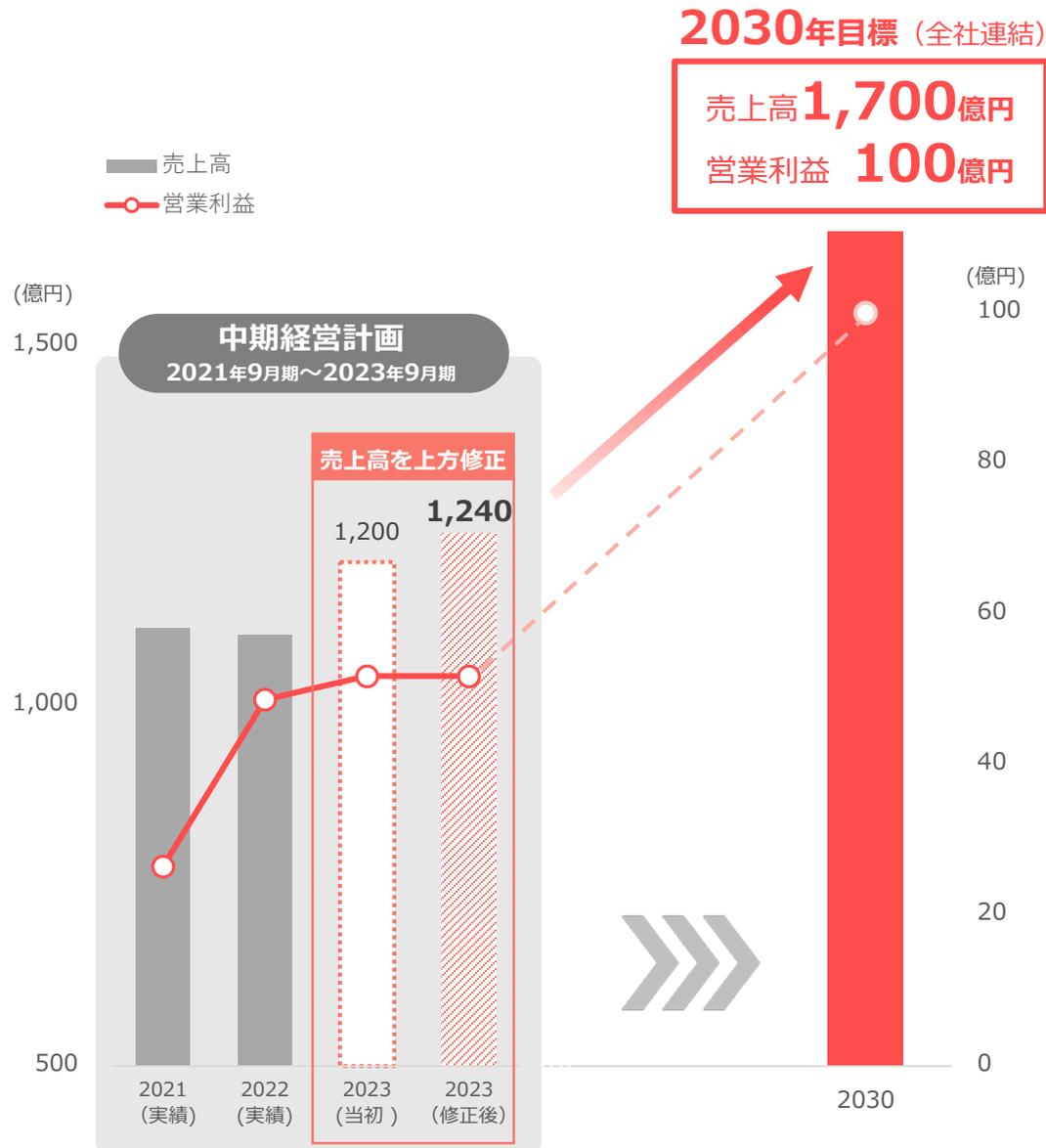
## 中期経営計画の進捗状況

Progress of Mid-term Business Plan

1. 2022年9月期 連結決算サマリー
2. 2022年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2023年9月期 通期業績予想
6. 持続可能な社会へ –SDGSへの取り組み–
7. APPENDIX



\*セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です



## 中期経営計画 2021年9月期～2023年9月期

2023年9月期数値目標 (2022/11修正後) :

売上高 **1,240**億円    営業利益 **50** 億円  
**EBITDA 110**億円

### 冷蔵倉庫事業

〈事業別方針〉  
経営環境の変化を先取りした事業モデルを創造、  
お客様へ新たな価値を提供する

数値目標：売上高 **305**億円    営業利益 **67**億円

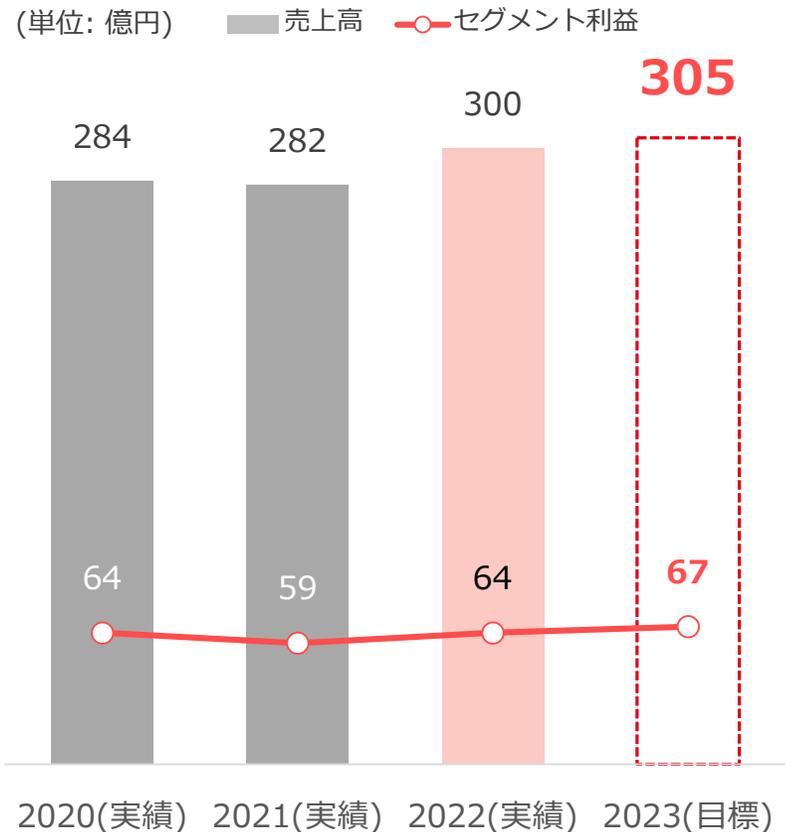
### 食品販売事業

〈事業別方針〉  
強みと絆を活かし、  
時代のニーズに適応した食の価値を創出する

数値目標：売上高 **935**億円    営業利益 **18** 億円

※セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です

- 当社独自の複合型物流サービスの提供などの新たな取り組みなどにより**売上高・利益ともに順調に拡大**
- 環境配慮型の物流センターの拡充やオートメーション化・省エネ化の推進により、更なる企業成長を目指す



## 中期経営計画重点施策

1. 環境配慮型物流センターの拡充
2. ヨコレイ品質の深化
3. 国内事業の新たな展開
4. 海外事業の拡張

## 2022年9月期 主な施策

### 環境と事業拡大を両立できる設備投資により 付加価値を高める

1. 各地域での物流ネットワークを強化する環境配慮型物流センターを着工 (3ヶ所)
2. 複合型マルチ物流サービスの推進
3. オートメーション化・省エネ化の推進

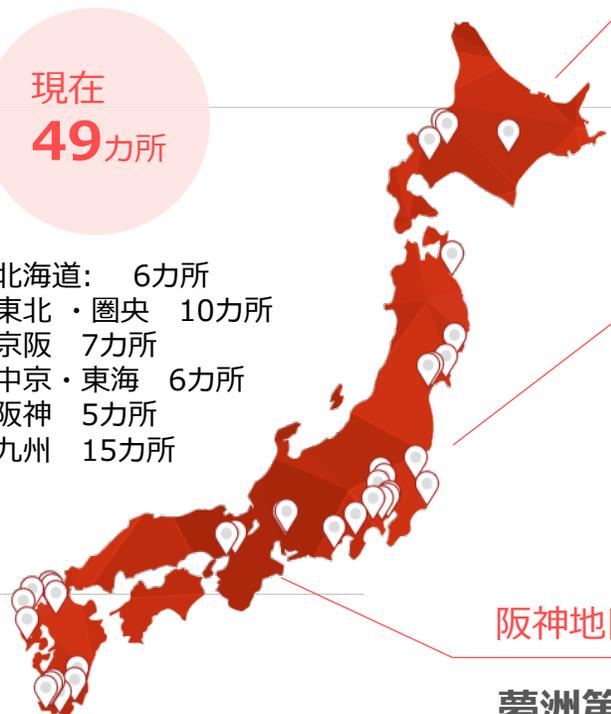
\*セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です

- 北海道、首都圏・北関東、阪神地区の物流ネットワークを強化
- 太陽光発電システムやDXなどの新鋭設備を備えた「環境配慮型物流センター」を建築着工

## 全国の冷蔵倉庫拠点

現在  
49カ所

北海道: 6カ所  
東北・圏央 10カ所  
京阪 7カ所  
中京・東海 6カ所  
阪神 5カ所  
九州 15カ所



## 道内物流ネットワークのさらなる強化を実現

### 恵庭スマート物流センター

2021年10月着工、  
2024年1月竣工予定

- 太陽光発電システム
- 北海道の気候を活かし、冬季には外気を利用



## 首都圏から北関東までをカバーする広域物流ネットワークに

### 千葉リサーチパーク物流センター

2021年10月着工、  
2023年2月竣工予定

- 大洗港－北海道間のフェリー貨物の取り扱いが見込める物流の要衝の地
- 省人化・省力化に特化し、最新鋭のDXを導入
- 建築物の環境への取り組みレベルを評価・格付けするCASBEEの総合評価ランクでA（たいへん良い）を取得



## 阪神地区における物流ネットワークを強化

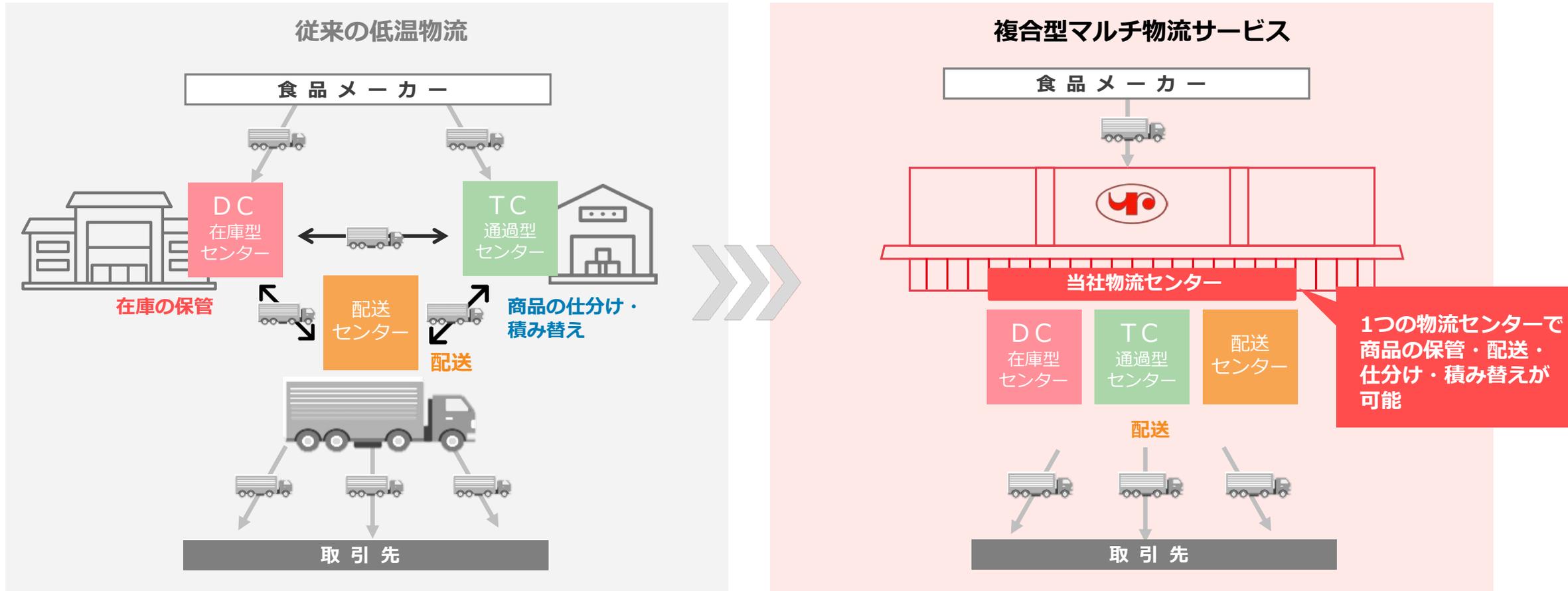
### 夢洲第二物流センター

2022年7月着工、  
2024年1月竣工予定

- 高天井人感センサー照明設備、太陽光発電システム、BEMS等、消費電力を大幅に削減する新鋭の次世代型の冷蔵倉庫



冷凍食品の増加、ドライバー不足、環境問題への対応策となる「複合型マルチ物流サービス」を積極展開



**付加価値を高め、顧客から選ばれる冷蔵倉庫へ進化**

国土交通省の物流総合効率化法「総合効率化計画」として認定された物流センターを展開

- ✓分散していた保管拠点を集約
- ✓トラック予約受付システムを導入

- ✓分散していた保管拠点を集約
- ✓トラック営業所を併設

## 東京羽田物流センター

認定：2018年2月認定



約**34%**削減



トラック  
手待ち時間 約**90%**削減

## つくば物流センター

認定：2020年2月認定



約**23.3%**削減



トラック  
手待ち時間 約**60%**削減

## 福岡ISLAND CITY 物流センター

認定：2020年12月認定



約**68%**削減



トラック  
手待ち時間 約**70%**削減

## 横浜みらいサテライト

認定：2020年4月認定



約**41.2%**削減



トラック  
手待ち時間 約**95%**削減

※削減パーセントは、当該物流センターが存在しなかった場合との比較

## 千葉リサーチパーク物流センター

2021年10月着工、2023年2月竣工予定



### オートメーション化

作業用ロボットを使用したデバンパレタイズシステム（DPS）を導入

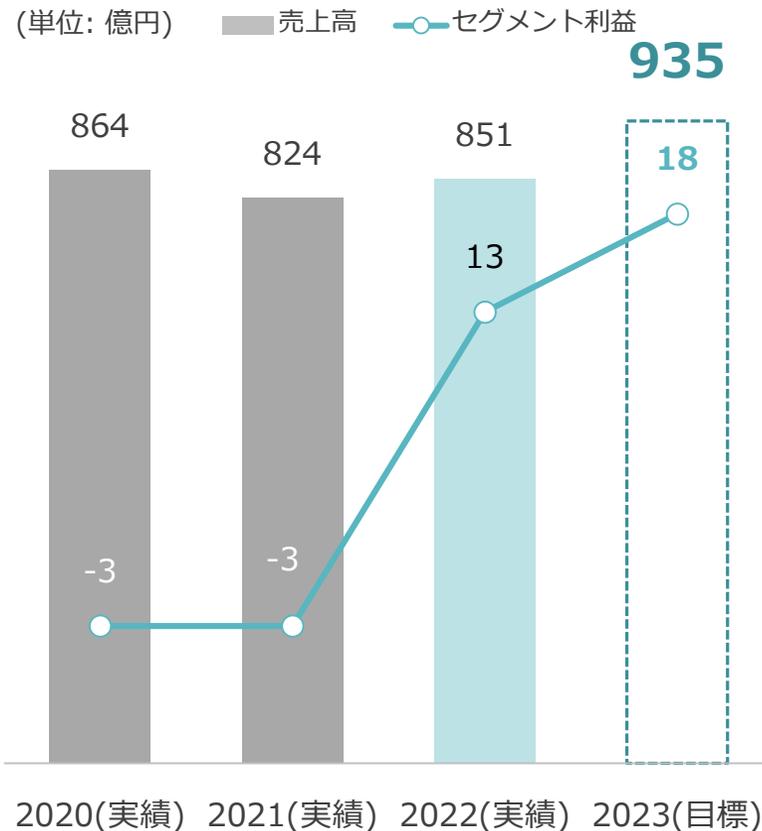
- 荷下ろし後の貨物のパレットへの積み上げ、フィルム梱包までの一連の作業を完全に自動化
- 当システムにより、**パレットへの貨物の積み上げ作業人員が不要になる。**

### 省エネ化

蓄電による冷蔵倉庫の冷却や最新鋭の省エネ電力システム

- 太陽光発電システムと大容量リチウムイオン蓄電池による当社初の「**蓄電による冷蔵倉庫の冷却**」
- 災害等の非常時にも、当センターで発電したエネルギーで倉庫内を冷却

- 販売拡大に向けた取り組みなどにより、**概ね計画通りに売上を拡大**
- 構造改革による収益性向上により、**大幅な黒字転換が実現**



## 中期経営計画重点施策

1. 収益性向上のための構造改革
2. 事業品の販売拡大
3. 独自商品の開発
4. 販売チャネルの開発
5. 海外における販路拡大

### 2022年9月期 主な施策

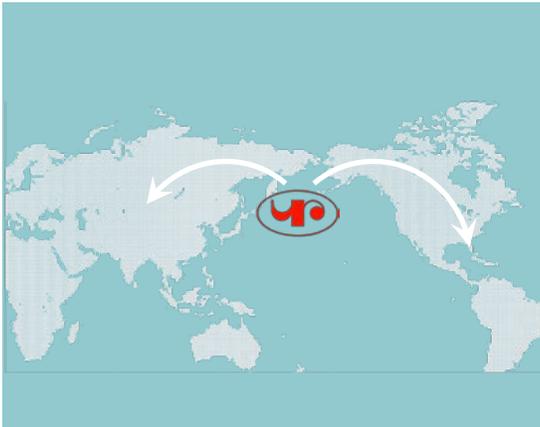
市場ニーズを的確につかみ、**成長拡大**する

1. 販路の新規開拓・事業品の販売拡大
2. 海外における販売拡大



## 1. 販路の新規開拓・事業品の販売拡大

- ✓ ノルウェーサーモンを中心に、量販店との取引を拡大
- ✓ 販路を多様化することで、市場変化に強い体質を目指す
- ✓ 事業所間連携によるノルウェーサーモン、ペルーイカ等事業品の販売を拡大



## 2. 海外における販売拡大

- ✓ 国産ホタテ、ペルーイカ・トビコ等の海外への販売を拡大
- ✓ 産地商材、凍結加工品の海外への販売を拡大



# 5

## 2023年9月期 通期業績予想

Earnings Forecast for FY2023

1. 2022年9月期 連結決算サマリー
2. 2022年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
- 5. 2023年9月期 通期業績予想**
6. 持続可能な社会へ –SDGSへの取り組み–
7. APPENDIX

# 2023年9月期 通期業績予想

(単位:百万円)		2022年9月期 通期実績	2023年9月期 通期予想	前期比	
				増減額	増減率
売上高	冷蔵倉庫事業	30,045	<b>30,500</b>	455	1.5%
	食品販売事業	85,157	<b>93,500</b>	8,343	9.8%
	売上高	115,257	<b>124,000</b>	8,743	7.6%
営業利益	冷蔵倉庫事業	6,447	<b>6,700</b>	253	3.9%
	食品販売事業	1,324	<b>1,850</b>	526	39.7%
	配賦不能費用	3,567	<b>3,550</b>	31	0.9%
	営業利益 (営業利益率)	4,252 (3.7%)	<b>5,000 (4.0%)</b>	748 (+0.3pt)	17.6%
経常利益 (経常利益率)		4,999 (4.3%)	<b>5,200 (4.2%)</b>	201 (△0.1pt)	4.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)		3,317 (2.9%)	<b>3,400 (2.7%)</b>	83 (△0.2pt)	2.5%
減価償却費		6,413	<b>6,540</b>	126	2.0%

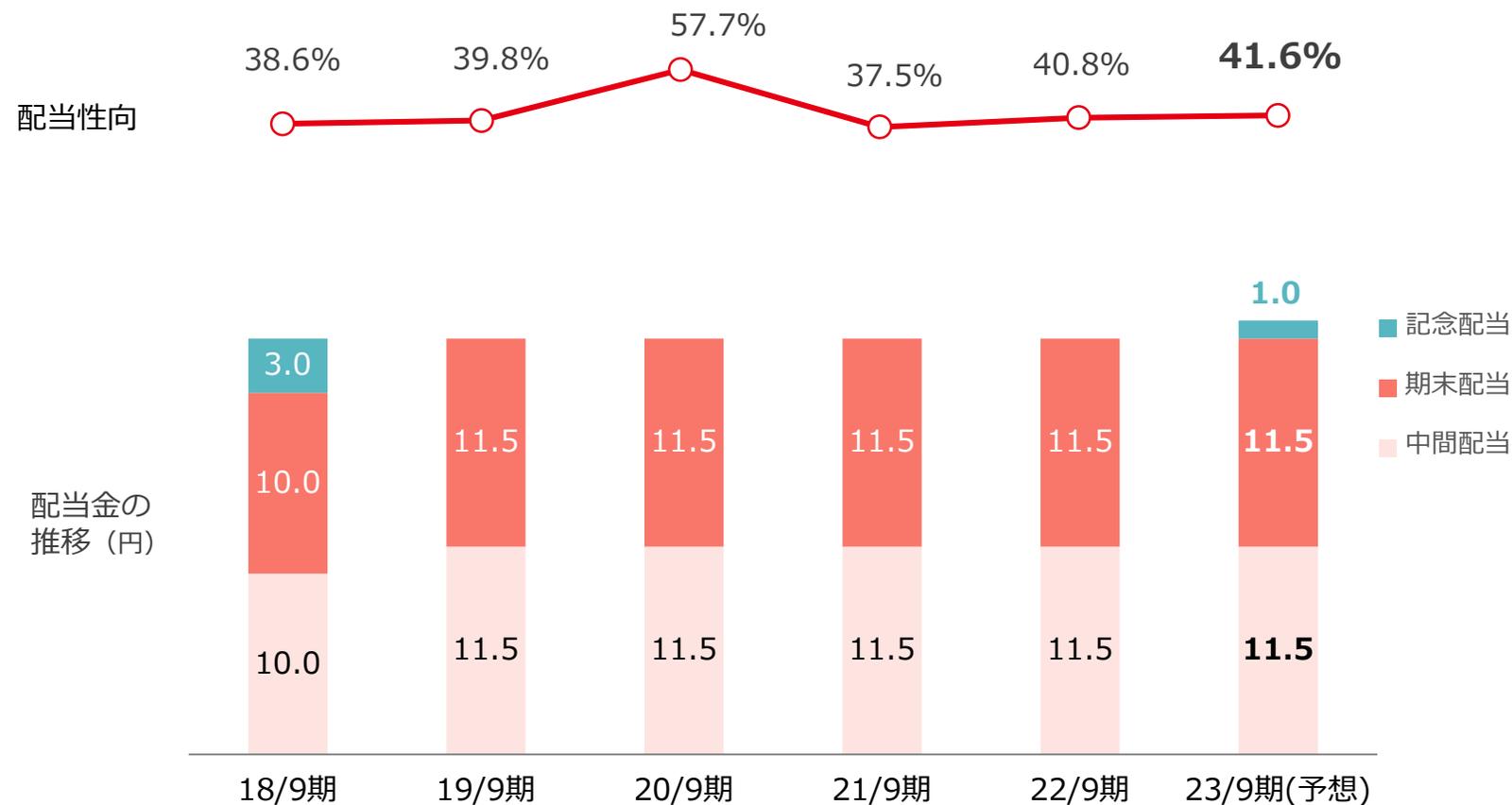
23年期末に+1.0円の  
創立75周年記念配当を  
実施予定

22/9期 年間 **23円**



23/9期 年間 **24円**

－ 1株当たり配当金と配当性向の推移－



# 6

## 持続可能な社会へ

—SDGsへの取り組み—

For the sustainable society - SDGs ACTIVITY -

経営理念

「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」

1. 2022年9月期 連結決算サマリー
2. 2022年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2023年9月期 通期業績予想
6. 持続可能な社会へ —SDGSへの取り組み—
7. APPENDIX

## 環境を破壊しない 自然冷媒による冷却システム

業界でもいち早く冷媒をフロンから、  
環境にやさしい自然冷媒（NH3、CO2）  
へ切り替え

業界トップクラス



## 太陽光発電システム によりCO2を削減

冷蔵倉庫で太陽光発電システムが稼働



物流センターの屋上に設置された太陽光発電  
モジュール

## 省エネな冷蔵倉庫

業界平均より電力使用が  
**10%** 少ない

収容能力1000トンあたり  
の電気の使用量

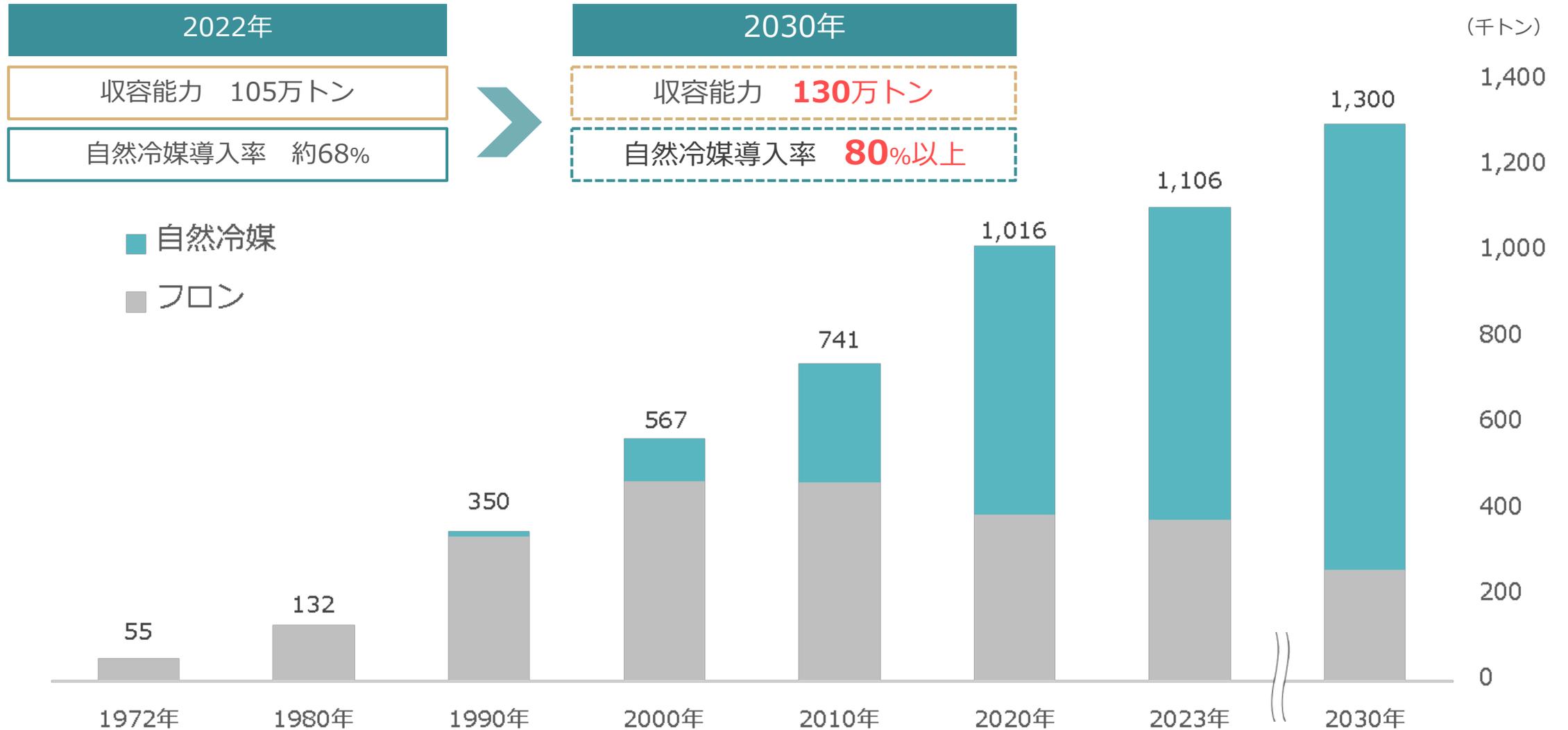
業界平均 : 165 MWh  
当社 : **147** MWh

日本冷蔵倉庫協会  
冷蔵倉庫実態調査 2021年版 より

✓ 自然環境・地球にやさしい物流を実現      ✓ 電気高騰の影響が業界平均よりも少ない

温室効果ガスのサプライチェーン排出量を意識する顧客に選ばれる冷凍倉庫へ

# 環境配慮NO.1 冷蔵収容能力と自然冷媒の割合



# サステナビリティビジョン 2030の進捗状況

## 定量目標



マテリアリティ		達成状況 (2022年9月期)	2023年中期経営計画目標	2030年目標
①地球環境との共生	温室効果ガス排出量 (2015年比)	<b>31.0%削減</b> 収容能力あたり排出量 85kg → 58kg	30%削減	40%削減
	自然冷媒導入率	<b>68.1%</b>	70%以上	80%以上
	太陽光発電量 (2020年比)	4,244MWh → 6,710MWh (2020年) (2022年) <b>+58.1%</b>	35%アップ	発電能力 10メガワット
	太陽光発電能力	5.1メガワット → 6.5メガワット (2020年) (2022年)	7メガワット	
②働きがいのある職場づくり	働きがいを実感している従業員の割合 (%)	<b>66.1%</b> 働きがいを感じていた25.3% やや感じていた40.8% (2022年7月 働きがいアンケート実施結果)	70%以上	80%以上
	総合職女性比率	<b>7.2%</b> 総合職883名中 男性819名 女性 64名 (2022年10月現在)	5% → 10%	女性管理職人数 2倍以上 (2020年度比)

## 環境への取り組み



**TCFD** | TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES



「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）」  
の提言へ賛同を表明  
「TCFDコンソーシアム」に加盟

気候変動をはじめとする環境問題への取り組み  
を積極的に推進

## 100%再生可能エネルギー電力



石狩第二物流センター

石狩物流センター

喜茂別物流センター

十勝物流センター

十勝第二物流センター

十勝第三物流センター

北海道地区の当社冷蔵倉庫を全て  
100%再生可能エネルギー電力に切り替え

北海道で運営する全冷蔵倉庫6拠点、収容能力約14万トンで  
使用する電力を、100%再生可能エネルギー電力に切り替え、  
脱炭素化に向けた取り組みを更に推進

## 環境への 取り組み

### 環境に配慮した冷蔵倉庫の建設



#### 太陽光発電システム

- 国内17カ所、タイ2カ所の冷蔵倉庫に設置



#### 自然冷媒冷凍機の導入

- 自然冷媒(アンモニア・CO2)の導入推進



全事業所でグリーン経営認証を取得

## 省人化 & 自動化

### 省人化・自動化システムの導入



- カーゴナビゲーションシステム
- 電動式移動ラック
- トラック予約受付システム

## ダイバー シティ

### ダイバーシティへの取り組み



- 女性の活躍・キャリア継続を支援
- 働きやすい職場づくりの推進

## ASC・CoC 認証

### 持続可能な水産物



- ホフセスアクア社(ノルウェー) 保有の全養殖場でASC認証を取得
- CoC認証も取得し、環境と社会に配慮した持続可能な水産物の調達・供給を推進

## スポンサー活動

### スポンサー活動による地域貢献



- 地域スポーツクラブの支援
- 日本将棋連盟「研修会」運営の支援
- えのすいecoサポーターとして新江ノ島水族館の エコ活動に協賛

## 社会貢献活動

### 寄付・協賛金による支援



### 『Sweet heart project』への寄付・支援

- ハンディキャップを抱える人々が福祉施設でお菓子作りを行う活動を支援する団体『Sweet heart project』への寄付・支援

このお菓子を当社のイベントやお客様へのお土産として活用することで同活動を応援



# 7

## APPENDIX

SOURCE BOOK

1. 2022年9月期 連結決算サマリー
2. 2022年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2023年9月期 通期業績予想
6. 持続可能な社会へ –SDGSへの取り組み–
7. APPENDIX



会社名	横浜冷凍株式会社
本社所在地	横浜市西区みなとみらい4-6-2 みなとみらいグランドセントラルタワー7F
設立	1948年5月13日
代表者	代表取締役会長 吉川俊雄 代表取締役社長 松原弘幸
資本金	14,303百万円
事業拠点	冷蔵倉庫事業 国内49 海外5 食品販売事業 国内27 海外1
従業員数	連結 1,652名 単体 1,334名
上場証券取引所	東証プライム (証券コード 2874)

\* 2022年9月30日現在

## 冷蔵倉庫事業

冷蔵倉庫 49拠点  
冷蔵収容能力 約950,000トン

主要拠点

東京羽田物流センター	21,091トン
名港物流センター	22,356トン
つくば物流センター	24,725トン
福岡ISLAND CITY物流センター	32,265トン

## 通関事業

通関部 5拠点

## 食品販売事業

水産品	19拠点
畜産品	4拠点
農産品	1拠点
その他	3拠点

### 買参権

国内主要漁港  
11か所で所有

- ・八戸
- ・女川
- ・塩釜
- ・佐世保
- ・長崎
- ・平戸
- ・気仙沼
- ・石巻
- ・唐津
- ・松浦
- ・枕崎

• 業界比較 品目別入庫（セグメント外取引含まず）

（単位:千トン）

品目別入庫実績		2021年9月期	2022年9月期	前年同期比	
				増減	増減率
水産品	ヨコレイ (シェア)	185 (9.4%)	205 (10.3%)	20 (0.9pt)	10.8%
	日冷倉12都市	1,959	1,997	38	1.9%
畜産品	ヨコレイ (シェア)	476 (11.1%)	480 (10.9%)	4 (△0.2pt)	0.8%
	日冷倉12都市	4,306	4,412	106	2.5%
農産品	ヨコレイ (シェア)	187 (15.5%)	203 (16.2%)	16 (0.7pt)	8.6%
	日冷倉12都市	1,209	1,250	41	3.4%
冷凍食品他	ヨコレイ (シェア)	534 (11.3%)	586 (11.9%)	52 (0.6pt)	9.7%
	日冷倉12都市	4,705	4,912	207	4.4%
合計	ヨコレイ (シェア)	1,382 (11.3%)	1,474 (11.7%)	92 (0.4pt)	6.7%
	日冷倉12都市	12,179	12,571	392	3.2%

• 主要品目別 入庫 (セグメント外取引含まず)

(単位:千トン)

主要品目別入庫	2021年9月期	2022年9月期	前年同期比	
			増減	増減率
エ ビ	17,482	21,092	3,610	20.6%
サ ケ	21,687	20,998	△ 689	-3.2%
カ イ	7,892	14,450	6,558	83.1%
サ バ	11,840	12,753	913	7.7%
イ カ	6,426	8,654	2,228	34.7%
水産品計	184,757	204,603	19,846	10.7%
チキン	181,205	179,795	△ 1,410	-0.8%
ポーク	118,973	108,223	△ 10,750	-9.0%
ビーフ	54,417	56,635	2,218	4.1%
畜産品計	476,280	480,069	3,789	0.8%
イモ類	19,620	22,466	2,846	14.5%
果汁・ジュース	20,721	21,207	486	2.3%
農産品計	187,004	203,372	16,368	8.8%
冷凍食品他計	534,307	586,176	51,869	9.7%
合計	1,382,348	1,474,220	91,872	6.6%

• 業界比較 品目別月末在庫累計（セグメント外取引含まず）

（単位：千トン）

品目別在庫累計		2021年9月期	2022年9月期	前年同期比	
				増減	増減率
水産品	ヨコレイ (シェア)	827 (13.6%)	863 (14.1%)	36 (0.5pt)	4.4%
	日冷倉12都市	6,090	6,106	16	0.3%
畜産品	ヨコレイ (シェア)	1,218 (13.8%)	1,219 (13.7%)	1 (△0.1pt)	0.1%
	日冷倉12都市	8,838	8,885	47	0.5%
農産品	ヨコレイ (シェア)	959 (29.6%)	958 (31.2%)	-1 (1.6pt)	△0.1%
	日冷倉12都市	3,242	3,067	-175	△5.4%
冷凍食品他	ヨコレイ (シェア)	629 (12.2%)	694 (12.6%)	65 (0.4pt)	10.3%
	日冷倉12都市	5,153	5,498	345	6.7%
合計	ヨコレイ (シェア)	3,633 (15.6%)	3,734 (15.9%)	101 (0.3pt)	2.8%
	日冷倉12都市	23,323	23,556	233	1.0%

## • 主要品目別 売上数量・金額・単価（連結ベース）

（単位：数量=トン・金額=百万円・単価=円）

主要品目	2021年9月期			2022年9月期			前年同期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
ポーク	25,401	11,926	469	18,809	8,520	453	△6,592	△3,406	△16.5
チキン	11,617	3,225	277	10,034	3,948	393	△1,583	722	115.8
ビーフ	2,657	2,384	897	2,988	2,605	871	331	221	△25.4
鮭 鱒	7,065	4,932	698	8,045	7,672	953	980	2,739	255
ホタテ	4,721	4,890	1,036	7,484	7,535	1,006	2,763	2,645	△29
サバ	49,494	8,771	177	44,702	8,505	190	△4,792	△266	13
エビ	4,239	4,696	1,107	4,532	5,468	1,206	293	772	98
カニ	1,051	3,362	3,199	823	3,579	4,349	△228	217	1,150
イカ	13,648	4,897	358	14,087	5,664	402	439	766	43
ホッケ	9,831	3,289	334	7,954	2,816	354	△1,877	△473	19
ウナギ	1,941	5,358	2,760	1,612	5,583	3,463	△329	225	703



— 「人」「もの」「地球」に優しい食品流通のエキスパート —

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものをご理解ください。

当社の事前の承諾なしに、本資料に掲載されている内容の複製、転載等を行うことを禁止します。



◀ 横浜冷凍(株)ホームページは  
こちらをスキャン

## お問い合わせ先

横浜冷凍株式会社 広報 I R 部

TEL: 045-210-0011

E-mail: [info@yokorei.co.jp](mailto:info@yokorei.co.jp)

URL : <https://www.yokorei.co.jp/>